

『「被爆」そして「被曝」を繰り返してはならない』 吉田真司

先週8月6日に広島市で開かれた平和記念式典での首相あいさつの一文から。「広島、長崎にもたらされた惨禍を決して繰り返してはなりません。非核三原則を堅持しながら、『核兵器のない世界』に向けた国際社会の取り組みを主導することは、唯一の戦争被爆国であるわが国の使命です」。この言葉に堅く立脚した歩みを切に願います。◇本日は平和礼拝であり、また東日本大震災を覚える日にもあたり、今巻頭言では、ナガサキ被爆者の私の父・吉田晃兒の「ずいそう」(日本バプテスト女性連合『世の光』2013年8月号)より一部紹介します。「1945年8月9日午前11時2分、私は長崎市郊外の個人病院の隔離病棟で4歳10ヶ月の命を終えようとしていた。戦争末期で医薬品もろくにない頃、子どもたちにとって命取りの病魔が私を襲っていた。『疫痢』である。高熱と下痢が続き、衰弱して死に至る。私は骨と皮になって、意識不明でその病院のタマネギ小屋に横たえられていたのだ。・・・当時のナガサキの被曝線量はどれくらいだったのだろう。フクシマの被曝地図を見ながら考えさせられる。私がいた病院は爆心地から直線距離で15キロメートルあまり。自宅は10キロメートル。そして後に通うようになった長崎教会と県立高校は5キロメートル。そんなに至近距離で私は幼少期と青年期を過ごしたことになる。押さえておきたいのは、『被爆』と『被曝』の違いだ。・・・フクシマの人たちは『被曝地』でこれから生きていかれるということ。曝され続けることの深刻さとストレスはどれほどか、と被曝地に生を受けた者のひとりとして心が痛む・・・」※「被爆」とは爆撃によって被害を受けること。「被曝」とは放射線に曝(さら)されること。◇80年前の悲劇と14年前の悲劇を記憶・想起しつつ、広島・平和記念公園に立つ原爆死没者慰霊碑に刻まれた言葉を深く私たちの心に刻みましよう。「安らかに眠って下さい 過ちは繰り返させぬから」(戦争という過ちを再び繰り返さないことを誓う言葉であり、過去の悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願い、真の世界平和の実現を祈念する「ヒロシマの心」が刻まれているもの。※広島市公式ウェブサイトより)

教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00~10:00 (相模原礼拝)
		午前10:40~12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30~10:20
		(嬰兒、幼児、小学生、中高生、青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)
祈り会	水曜日	午後 7:30~9:00
金曜集会	金曜日	午前10:30~12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前10:00~12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30~3:00 (長谷川家)

日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間4-24-6 TEL&FAX046(274)3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>